

学校法人 静岡理工科大学

静岡デザイン専門学校

専門課程	服飾・家政	ファッションビジネス科
専門課程	服飾・家政	ブライダル・ビューティー科
専門課程	服飾・家政	ファッションデザイン科
専門課程	文化・教養	グラフィックデザイン科
専門課程	文化・教養	プロダクトデザイン科
専門課程	文化・教養	インテリアデザイン科
専門課程	文化・教養	フラワーデザイン科

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日	久保田 香里		〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日	橋本 新平		〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333		
目的	本科は、ファッションのトレンド分析や商品企画、ショップの企画運営や販売促進等ファッション業界全般の知識や手法を習得する。さらにショップ実習やコーディネート実習を通してショップ運営の一連の流れを習得し、業界での即戦力となる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
服飾・家政	専門課程		ファッションビジネス科		平成10年文部省告示 第179号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間		1920	390	780	750	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
40人		34人	3人		19人	22人	
学期制度	■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 7月22日～8月29日 ■冬季: 12月20日～1月5日 ■学年末: 3月15日～3月31日			卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと		
生徒指導	■クラス担任制: 無 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。			課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)ジーンズショップオサダ、イトキン(株)、アーバンリサーチ、(株)レイ・カズン等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)			主な資格・検定等	■ファッションビジネス検定3級 ■AFT色彩能力検定3級 ■販売士検定 ■パーソナルカラー検定 ■商品ラッピング検定3級		
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 12.8% 平成28年4月1日 在学者 39名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 34名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 別分野への進路変更、家庭都合 ■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなど実施し、学生の変化の早期発見に努めた。						
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広くファッション・服飾業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
小山 真人	静岡県百貨店協会 会長
浅野 剛史	RAG AMERICAN LLC 代表取締役
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科学科長

(開催日時)

第1回 平成28年 3月29日 10:00 ~ 12:00

第2回 平成28年 8月 8日 10:00 ~ 12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

ファッションアドバイザーがどのような職種かを体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開ききっかけとなるような指導をお願いしている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
接客技術 I	ファッションアドバイザーの基礎知識の習得とともに、授業を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。	株式会社 ワールド

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 パイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程 ファッションビジネス科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			IT活用	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○		○		○		
○			IT応用	IT技術をビジネスに活用することを学習する。	2・後	60	2		○		○			○	
○			ファッションビジネス論	ファッションビジネスの変遷を背景にした広範囲な領域のビジネス活動を包含しアパレル業界の構造を理解する。	1・前	30	1	○			○		○		
○			モード史	過去のトレンドを学び、その知識を説得力あるセールストークに活かす。	1・後	30	1	○			○			○	
○			トレンド分析	ブランド作り＝自分探しとし、自分の好き嫌い、潜在的に秘めているもの、客観的に自分を観察したり向き合う事を目的とする。	2・前	30	1		○		○			○	
○			市場調査	ブランドの企画・コンセプトの裏づけとなるターゲット市場のリサーチ・分析の実践を通じ、マーケティング活動に基づく企画立案の重要性を理解する。	1・通	30	1		○		○			○	
○			マーチャンダイジングⅠ	店頭演出計画の立案や店舗運営時の店内業務に必要なVMDの基礎知識を学び、実習を通してヴィジュアルプレゼンテーションのスキルを習得する。	1・後	60	2	○			○			○	
○			マーチャンダイジングⅡ	1年次に学習した内容を深め学習する	2・前	30	1	○			○			○	
○			ファッションイラスト	ビジネスプランニングに必要なスキルとしてのデザイン画(スタイル画)とアイテム画(ハンガーイラスト)を学ぶ。	1・後	30	1		○		○			○	

○		POPデザイン	グラフィック系ソフトの利用方法を学習する。	2・後	30	1		○	○				○
○		セールスプロモーション	プロモーションとマーケティングの関連の基礎を学び、小売店舗における販売促進の基本的手法と重要さを理解する。	1・後	30	1		○	○				○
○		ラッピング	販売において、顧客サービスの一環としてのギフトラッピングサービスが正しく理解され、その手法をビジネスで使う事が出来るよう学習する。	1・通	30	1		○	○				○
○		色彩学	色彩理論の基礎を学習する。感性を磨くと共に、色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○		○			○	
○		パーソナルカラー	パーソナルカラー検定モジュール1の学習をする。	2・前	30	1	○		○				○
○		アパレル素材論ⅠA	繊維から布地になるまでの各過程における状態の素材を、実際に見て、触れながら学習する。	1・前	30	1	○		○				○
○		アパレル素材論ⅠB	様々な素材の感性、物性を理解することで、衣服を構築する重要要素としての《素材》について学ぶ。	1・後	30	1	○		○				○
○		アパレル素材論Ⅱ	各々の素材特性を理解し、接客時に価格以上の付加価値を感じてもらえるような提案、アドバイスが出来るよう知識を習得する。	2・前	30	1	○		○				○
○		接客技術Ⅰ	ファッションアドバイザーの基礎知識の習得とともに、授業を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。	1・前	30	1		○	○				○ ○
○		接客技術Ⅱ	接客コンテストに向けた高度な商品知識と良質なサービスを兼ね揃えた接客技術の向上を目指す。	2・前	30	1		○	○				○
○		服飾造形Ⅰ	人体構造や原型についての基礎知識を学び、縫製についての基礎、応用を習得する。	1・通	90	3			○ ○				○
○		服飾造形Ⅱ	採寸方法、修繕についての基礎について実習を行うを目指す。	2・通	60	2			○ ○				○
○		販売士講座	販売士試験の合格を目指して学習する。	1・後	60	2	○		○				○
○		スタイリングⅠ	ファッションコーディネートをする上で必要な、アイテム知識、トレンド知識、色・素材・柄・感覚に視点を置いた論理的なコーディネートの基本を学び自身の表現手法の幅を広げる。	1・通	60	2		○	○			○	

○		スタイリングⅡ	商業的なコーディネート（店頭におけるスタイリング）および芸術的なコーディネートの双方を習得する。	2・通	30	1		○	○	○				
○		ショップ経営	店舗運営において必要な売上管理・仕入れ管理・在庫管理等における基本知識を習得する	1・前	30	1		○	○					○
○		ショップマネージメント	店舗運営において必要な売上管理・仕入れ管理・在庫管理等における基本知識を実習店舗の企画・運営・終了後の分析を通し、実践的に理解する。	2・前	30	1		○	○					○
○		起業概論	ファッションだけに限らず、課題発見する視点を養い、ビジネスプランを組み立てるプロセスを学ぶ。	2・後	60	2		○	○					○
○		ショップ実習Ⅰ	企業理念に基づく商品作りのプロセスを体系化して学び具体的な商品政策を企画立案しMD知識を身につける。	1・後	90	3			○	○				○
○		ショップ実習Ⅱ	店舗企画を基に、商品仕入から販売促進などの運営における全ての業務を行い、店舗を形成する業務の一連の流れと全体の構成を理解する。	2・前	90	3			○	○			○	
○		ショップ研修Ⅰ	就業体験（インターンシップ）を実施する事により、職業の理解を深める。	1・後	60	2			○		○	○		
○		ショップ研修Ⅱ	就業体験（インターンシップ）を実施する事により、職業の理解を深める。	2・後	60	2			○		○	○		
○		キャリアプランⅠ	自分の特性を客観的に把握しキャリアプランを立てる。ファッション業界の企業の選考方法を把握して、それぞれの選考に備える。	1・通	30	1		○		○			○	
○		キャリアプランⅡ	実際に始まる就職活動に対する実践力を養い、就職活動を通して、社会人としての自覚を持てるよう学習する。	2・前	30	1		○		○			○	
○		シズデプロダクションⅠ	校外イベント、ボランティアへの参加。外部企業、社会との連携を図り実体験を重ねる。	1・前	30	1			○	○			○	
○		シズデプロダクションⅡ	学校自主企画イベントや他のイベント運営を通して行動を学習する	2・通	30	1			○	○			○	
○		アラモード	2年間の集大成（ファッションビジネス知識・コーディネート提案力・接客マナー・企画立案力）としてチームワークの大切さ、人の心を動かす力を養う。	2・後	120	4			○	○			○	
○		卒業研究	ファッションアイテムについてのバックグラウンドや「人・物・事」との関連性を研究する。	2・後	60	2			○	○				○

○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○		○		○
○		特別講座Ⅰ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	1・通	30	1		○		○		○	
○		特別講座Ⅱ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	2・通	30	1		○		○		○	
合計			42 科目	1920単位時間(64 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科は、ブライダル分野とビューティー分野において専門的な知識、技術を身につけると同時にサービス業界に就くための礼儀やマナーを習得する。更にコンクール参加や模擬ブライダルの企画運営を通して実践力を付けると同時にホスピタリティーの心を磨き、当業界で活躍できる人材育成を目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	専門課程	ブライダル・ビューティー科	平成22年文部科学 省告示第152号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1980	150	810	1020	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	57人	3人	21人	24人			
学期制度	■前期：4月1日～ 9月30日 ■後期：10月1日～ 3月31日		成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする			
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏季：7月22日～8月29日 ■冬季：12月20日～1月5日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと			
生徒指導	■クラス担任制： 無 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。		課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動： 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 資生堂販売(株)、(株)呉竹荘、(株)クリエイティブケイライン、(株)マサモリ、(株)静岡伊勢丹、京王百貨店等 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 96.7 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■AFT色彩能力検定3級 ■ブライダルファッションプランナー検定 ■パーソナルカラー検定 ■ネイリスト技能検定3級・2級 ■アロマセラピー検定2級			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成28年4月1日在学者 61名 平成29年3月31日在学者 57名 ■中途退学の主な理由 別分野への進路変更、家庭の都合 ■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなど実施し、学生の変化を早期発見に努めた。		■中退率 6.6 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者をを含む)				
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広く、ブライダル、ビューティー業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
臼井 満	静岡県百貨店協会 会長
浅野 剛史	RAG AMERICAN LLC 代表取締役
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
大橋 としみ	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科学科長

(開催日時)

第1回 平成28年 3月15日 10:00 ~ 12:00

第2回 平成28年 8月 8日 10:00 ~ 12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

ブライダル・ビューティー業界の重要な分野について、業界が求める能力レベルや重要項目を理解できるような企業等を選定している。

同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

科目名	科目概要	連携企業等
礼法Ⅰ (接客を含む)	日本の文化、しきたりを理解するとともに、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	株式会社 Kei Manners
礼法Ⅱ (接客を含む)	礼法Ⅰを深め、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	株式会社 Kei Manners

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 バイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 ブライダル・ビューティー科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			IT活用	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・後	30	1		○		○		○		
○			IT応用	デザインの現場で必須のアプリであるデザイン系ソフトを学習し、基本的な操作法を習得する。企画書やレイアウトデザインを要する印刷物への応用力を身に着ける。	2・通	30	1		○		○			○	
○			ブライダルプランナー	ブライダルへの興味を高め、最も大切となるサービスを学び、ブライダルへの基礎知識を学び認定試験を受験する。	1・通	60	2		○		○			○	
○			ブライダルプランナー実践	基礎知識とマナーを身につけ、スペシャリストになるための育成を目的とし、全日本ブライダル協会が主催する『ジュニアライセンス認定試験』を取得目標とする。	1・通	30	1		○		○			○	
○			ブライダルプロジェクト	ブライダルの流れを実践しブライダル分野の専門性を磨き、トータルコーディネイトを学ぶ。	2・前	60	2			○	○			○	
○			ブライダル西洋史	フォーマルな場に相応しいドレス、小物に関して、説得力ある提案・提示が出来る知識を習得し、フォーマル素材を扱う上での基本的な知識を得る。	1・後	30	1	○			○			○	
○			デザイン基礎Ⅰ	デザイン画を作成するうえで必要となる、顔の比率や、見る角度による稜線の変化を把握する。	1・後	30	1		○		○			○	
○			デザイン基礎Ⅱ	人の顔の骨格、筋肉のつき方を学びことで、顔や頭部を3次元での捉え、表現出来る。	2・前	30	1		○		○			○	
○			薬品&スキンケア	最新科学情報から「化粧品学」や「栄養学」までの知識を習得することにより、人間の心と身体の美と健康を維持するためのサポートができる人材を育成する。	1・前	30	1	○			○			○	
○			メイク実習Ⅰ	どのような職場においても実践的にメイクアップができる事を目的とする。	1・通	120	4			○	○			○	

○		メイク実習Ⅱ	メイク知識、技術を学ぶ事で、今何を必要とするのか、何をすべきか理解力・判断力・行動力創造力を育成する。	2・通	120	4				○	○							○
○		ステージメイク実習	各分野のメイク技法のデモンストレーション、実習を体験し視野を広めることを目的とする。	2・通	30	1				○	○							○
○		ネイル実習	JNAネイリスト技能検定試験3級取得を目標とし、学科・技術を身につけネイルケアサービスを行う為の基礎を学ぶ。	1・通	60	2				○	○							○
○		ネイルアートⅠ	JNAネイリスト技能検定試験3級取得を目標とし、ネイルアートの技術を身につけ作品作りに繋げる。	1・後	60	2				○	○							○
○		ネイルアートⅡ	JNAネイリスト技能検定2級取得を目標とし、学科・技術を身につけ、プロフェッショナルとして通用するネイルケア・リペア・アートの知識を学ぶ。卒業作品の制作。	2・通	90	3				○	○							○
○		ヘア創作実習Ⅰ	ヘアデザインの基本となる美容理論、美容技術の基礎を学び、ヘアアレンジにつながる技術を習得する。	1・通	60	2				○	○							○
○		ヘア創作実習Ⅱ	ヘアデザインを通して接客業としての相手への接し方・技術を学び、社会に出てからの実践に役立てるようにし、就職に繋げるための作品づくり。	2・通	60	2				○	○							○
○		アロマセラピー	アロマセラピーの基礎を実践を通して学び、自分自身の心と体の健康に役立たせる。検定2級の合格を目標とすることで「仕事・職業」としての意識を高める。	1・通	60	2			○	○								○
○		着付けⅠ	きものを通して日本の心と文化を学び、礼儀作法・立ち居振る舞い、和装用語と装いの理解「きもの」の名称、無駄のない流れを身に着け、社会でも活用されることを目標とする。	1・前	30	1			○	○								○
○		着付けⅡ	主に他装の着つけに力を入れ、相手に対する思いやり・人間性等、きものを通して学ぶ。装いの理解と、コミュニケーションを認識させ、社会人として活かされることを目的とする。	2・後	30	1			○	○								○
○		伝承美	日本の伝統芸術茶道を通して、自然との関わり方を学ぶ。	1・前	30	1			○	○								○
○		マーケティング	商品・サービスの目的を理解し、マーケティングの感性を育て、共感するセンスを磨き、取り巻く環境、市場（企業）の動き、生活者の意識の変化やニーズを気づく力を養う。	1・後	30	1	○			○								○
○		礼法Ⅰ（接客を含む）	日本の文化、しきたりを理解するとともに、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	1・前	30	1			○	○								○ ○
○		礼法Ⅱ（接客を含む）	礼法Ⅰを深め、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	2・前	30	1			○	○								○ ○

○		洋裁Ⅰ	実技を通して、素材や副資材の知識・扱いを身につける。	1・後	30	1		○	○	○				
○		洋裁Ⅱ	「デザインアラモードヘアメイクショー」におけるモデル衣装の制作を通し柔軟な発想、企画構成力を養う	2・後	30	1		○	○	○				
○		色彩学	色彩の基礎知識を学習し、感性だけでなく『色と商品の意味づけ』を表現、伝達できる人。提案ができる人の必要な講義とする。	1・前	60	2	○		○	○				
○		パーソナルカラーⅠ	『その人の似合う色』という印象を理論的に分析し見極める力をつける。	1・通	30	1		○	○	○				
○		パーソナルカラーⅡ	接客技術として、お客様に提案できる『その人の似合う色』という印象を理論的に分析、展開できる技能を取得する。	2・前	60	2		○	○	○				
○		キャリアプランⅠ	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学び、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化することで、今後の就職活動における面接に備える。	1・後	30	1		○	○	○				
○		キャリアプランⅡ	自己理解のより就職に対する意識を高める。特にコミュニケーション能力を強化し、自己アピールを実践で練習する。社会人とのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2・前	30	1		○	○	○				
○		シズデプロダクションⅠ	地域社会や企業における外部イベントに参加する過程を通し、助け合いの心やコミュニケーション力、企画力、協調性を育む。	1・通	60	2			○	○	○			
○		シズデプロダクションⅡ	地域社会や企業における外部イベントに参加する過程を通し、助け合いの心やコミュニケーション力、企画力、協調性を育む。	2・通	30	1			○	○	○			
○		アラモード	2年間で身につけた技術の集大成として、ヘアメイクショー形式で作品を発表する。テーマの選出や構成演出、チームワーク力を評価する。	2・通	150	5			○	○	○			
○		卒業研究	イラストレーター・フォトショップを使用するポートフォリオ作り。また、パソコンの操作や機能を習得することで、就職後の資料作成やパンフレット作成に有効な能力を身につける。	2・通	60	2		○		○	○			
○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○		○	○		
○		特別実習Ⅰ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストを招き講演、デモンstrーション、実習などを体験し視野を広げることを目的とする。	1・通	30	1			○	○	○			
○		特別実習Ⅱ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストを招き講演、デモンstrーション、実習などを体験し視野を広げることを目的とする。	2・通	30	1			○	○	○			
合計					40	科目	1980単位時間(66 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	18週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日	久保田 香里		〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日	橋本 新平		〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科は、ファッション業界での活躍を目指した総合的な学習を行う。衣服作りの基本を始めとして、オリジナルブランドを立ち上げる経験を通じて企画の立て方、衣服のデザイン、パターン作成、実際の衣服製作、店頭での販売など、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
服飾・家政	専門課程(服飾・家政)		ファッションデザイン科		平成12年文部省 告示第15号		-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
	3年							昼間	2940
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60人 の内数		38人 の内数		4人 の内数		22人 の内数		26人 の内数	
学期制度	■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末と学年末に試験を行い、平素の成績と併せて60点以上を合格とする。				
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 7月22日～8月29日 ■冬季: 12月20日～1月5日 ■学年末: 3月15日～3月31日			卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。			課外活動	■課外活動の種類 ファッションクリエイティブ部、ダンス部、作って売る部 ■サークル活動: 有				
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)R's、(株)克蘭ベリー、(株)スズショウ、 (株)ツツキ、(有)トークインコーポレーション等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)			主な資格・検定等	■AFT色彩能力検定3級・2級 ■パターンメイキング技術検定3級・2級、 ■洋裁技術検定 ■専修学校専門課程准教員認定				
中途退学の現状	■中途退学者 2名		■中退率 5%						
	平成28年4月1日時点	在学者 40名	(平成28年4月1日入学者を含む)						
	平成29年3月31日時点	在学者 38名	(平成29年3月31日卒業者を含む)						
■中途退学の主な理由									
経済的事情及び家庭事情により退学。									
■中退防止のための取組									
入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなど実施し、学生の変化を早期発見に努めた。									
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広く、ファッション・アパレル業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業等のニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置付けを「静岡デザイン専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、また、その運営も「静岡デザイン専門学校 教育課程編成委員会の規則」として制定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小山 真人	静岡県百貨店協会 会長	平成27年6月1日～平成29年1月31日	①
岡本 裕樹	株式会社ツツキ 係長	平成28年3月4日～平成29年1月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	平成28年2月1日～平成29年1月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	平成28年2月1日～平成29年1月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	平成28年2月1日～平成29年1月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科学科長	平成28年2月1日～平成29年1月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(開催日時)

第1回 平成28年3月29日 10:00～12:00

第2回 平成28年8月 8日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

実際の服売り場では、単に服を販売するだけでなく、服のお直し、リフォームの提案力というものも重要になってくる。また、持ち込まれた服をリフォームする場合、どこを詰めればよいのかという知識がなければ引き受けることができない。それらを学べる環境があるとよい。とのご意見をいただき、服のお直しに関する基礎知識習得の機会を増やした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションデザイン科に在籍する学生の多くがファッション・アパレル業界への就職を希望する。そのような学生に対し、業界の基本行動を体得することができるような企業を選定し、将来の展望を開くことにつながる指導をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

担当授業のすべてについて、当該企業より講師の派遣を依頼し、本校にて授業を実施する。授業は講義と演習により構成し、成績評価は本校規程に基づき担当講師が行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
アパレルCADⅡ	アパレル業界に就職するために必要となるCADの操作スキルを身につける。これまで手で行っていたパターン作成をCADに置き換える基本的な手順を覚え、効率化の手法を学ぶ。	ガイア

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

＜何故トレンドカラーが生まれ、どのように伝播していくのか？その賞味期限は？＞

期間：平成28年7月14日

主催：JAFCA 一般社団法人 日本流行色協会

対象：教員1名

概要：トレンドカラーが作られていく仕組みと流行がどのように発生していくのかを解説。

②指導力の修得・向上のための研修等

＜職場や教室で活かせるコミュニケーションスキルの質の向上＞

期間：平成28年8月18日

主催：MQ総研 寺尾 寿樹

対象：教員9名

概要：相手を褒めるコミュニケーションの取り方を学習し、職場を円滑にしたり、学生の能力を伸ばしたるする方法を学ぶ。

- (3) 研修等の計画
- ① 専攻分野における実務に関する研修等
 <2018年秋冬JAFCAカラートレンドセミナー >
 期間:平成29年7月12日
 主催:JAFCA 一般社団法人 日本流行色協会
 対象:教員1名
 概要:2018年秋冬におけるファッショントレンドを解説。
- ② 指導力の修得・向上のための研修等
 <発達障害学生への理解と指導方法 >
 期間:平成29年8月22日
 主催:静岡県発達障害者支援センター あいら
 対象:教員10名
 概要:15人に1人いるともいわれる発達障害への理解を深め、適切な対応方法を学び、今後の学生指導に活かす。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準1 教育理念・目標
(2) 学校運営	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(3) 教育活動	基準2 教育活動
(4) 学修成果	基準3 教育成果
(5) 学生支援	基準4 学生支援
(6) 教育環境	基準5 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準6 学生の募集と受入
(8) 財務	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(9) 法令等の遵守	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準8 社会貢献・地域貢献、国際交流
(11) 国際交流	基準8 社会貢献・地域貢献、国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

保護者から「こんな風に子供を育てて欲しい」とか、学生から「学校の目的や構想に対する希望や意見を聞いて、毎年見直ししながら、再確認することも大切である。」のご意見をいただいた。この改善を行うため、アンケートの実施、面談を通じて希望や意見の抽出を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表	平成26年6月16日～平成31年5月31日	卒業生
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	平成27年5月21日～平成29年5月31日	保護者
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長	平成26年6月9日～平成30年5月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役	平成26年6月10日～平成30年5月31日	業界関係者
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	平成26年6月11日～平成30年5月31日	業界関係者
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 パイヤー	平成26年6月11日～平成30年5月31日	業界関係者
以下事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校	平成26年6月11日～平成30年5月31日	校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校	平成26年6月11日～平成30年5月31日	教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校	平成26年6月11日～平成30年5月31日	教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校	平成26年6月11日～平成30年5月31日	総務課長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他)

URL: <http://www.sdc.ac.jp/>

平成28年5月1日公開

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動および学校運営について理解を求めため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校情報 1.学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	学校情報 2.各学科の教育
(3) 教職員	学校情報 3.教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校情報 4.キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校情報 5.様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学校情報 6.学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学校情報 7.学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校情報 8.学校の財務
(9) 学校評価	学校情報 9.学校評価
(10) 国際連携の状況	学校情報 10.国際連携の状況
(11) その他	学校情報 11.その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程ファッションデザイン科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等と の連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			コミュニケーション活動Ⅰ	本校の学生としての自覚を持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○			
○			コミュニケーション活動Ⅱ	2年生として就職活動の心構えを持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○			
○			コミュニケーション活動Ⅲ	社会に出るための準備として、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げるとともに社会人基礎力をつける。	3・通	60	2		○		○	△	○			
○			IT活用	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○		○		○			
○			服飾造形ⅠA	シャツ・パンツ・スカートの基本的な構造と作図・仮縫い・縫製を通して各種の基礎を学ぶ。	1・通	210	7			○	○				○	
○			服飾造形ⅠB	衣服製作のための基本的な作図とパターンの習得するとともに、作図・縫製時に使用する道具の使い方・基本的な手縫いのテクニックなどを学習する。	1・前	60	2			○	○				○	
○			服飾造形ⅠC	ワンピース製作を通して、縫製工程の手順、素材に対する知識、副資材の扱い等の基礎を学習する。	1・後	150	5			○	○					○
○			服飾造形Ⅱ	1年次に学んだ知識と技術を応用発展させ、縫製工程を理解した上で工業用パターン、工業用技術を身につける。題材としてジャケットを製作する。	2・前	150	5			○	○					○
○			パターンメイキングⅠ	人体の構造に基づくパターンメイキングの基礎並びに立体の展開方法を学習する。さらに工業用パターン、グレーディングを身につける。	1	120	4			○	○					○
○			パターンメイキングⅡ	パターンメイキングⅠを発展させ、ジャケットなどのパターンを学習し、パターンメイキング技術検定試験3級取得を目指す。	2	120	4			○	○					○
○			パターンメイキングⅢ	パターンメイキング技術検定試験2級取得を目標に、アパレル企業のパターンメイキングについて学習する。	3	60	2			○	○					○
○			ドレーピングⅠ	立体的裁断の基礎を学習し、ベーシックスローパーの組立てを身につける。トワルの取り扱いとピンワーク～ドラフティングを学習する。	1	30	1			○	○					○

○		ドレーピングⅡ	ドレーピングでシャツ、ジャケット、ドレープの組立て方を学習する。パターンメイキング検定3級の実物製図と連動させ、ドレーピングの流れを学ぶ。	2・前	60	2				○	○							○	
○		アパレルCADⅠ	CADシステムの理解とアパレル業界での必要性を認識する。CADの操作の基礎を学ぶ。	2・後	30	1				○	○							○	
○		アパレルCADⅡ	アパレル業界に就職するために必要となるCADの操作スキルを身につける。これまで手で行っていたパターン作成をCADに置き換える基本的な手順を覚え、効率化の手法を学ぶ。	3・前	30	1				○	○							○	○
○		ファッションデザイン画ⅠA	デザイン画を描くための基礎を学習する。絵を描く事の楽しさにふれ、自身のデザインを表現する為の技術を身につける。	1	60	2				○	○							○	
○		ファッションデザイン画ⅠB	人体の構造を学び、プロポーションを正しく理解する。	1	30	1				○	○							○	
○		ファッションデザイン画Ⅱ	新しいファッションデザインを創造するための発想方法を身につける。公募のコンクールに応募し入賞を目指すことで、ファッションデザインの感性と理解を高める。	2	60	2				○	○							○	
○		ファッションデザイン画Ⅲ	デザイン発想や描画技術力の集大成として、「デザイン・ア・ラ・モード」にてショーと展示を行う。デザインと素材を絡めながら、トータルな提案力を高める。	3	60	2				○	○							○	
○		アパレル素材論ⅠA	アパレル製品の重要な要素である〔素材〕に興味を持ち、様々な組み合わせ、最新の使いこなし方を学び、総合的な素材に関する知識を得る。	1・前	30	1				○	○							○	
○		アパレル素材論ⅠB	それぞれの素材が持つ特徴や、物性を理解することで、衣服を構築する重要要素としての《素材》を意識する。	1・後	30	1				○	○							○	
○		アパレル素材論Ⅱ	衣服を構成する要素の一つである、《素材》を他の要素とバランス良く活かし、表現、具現化することを学ぶ。	2	30	1				○	○							○	
○		色彩学Ⅰ	色彩理論の基礎を学習する。感性を磨くと共に、色彩検定3級合格を目指す。	1・後	60	2				○	○							○	
○		色彩学Ⅱ	色彩の基本（3級）をふまえ、更にレベルアップをねらい、色彩検定2級合格を目指す。	2・前	60	2				○	○							○	
○		ファッションビジネス論	ファッションビジネスの変遷を背景にした、広範囲な領域のビジネス活動を概観し、アパレル業界の構造を理解する。	1・前	30	1				○	○							○	
○		マーケティング	マーケティング概念とともに、ファッション分野に特化したノウハウを理解する。3年次に控えるSPA実習を踏まえた市場調査・資料製作を実践学習する	2・後	60	2				○	○							○	
○		モード史	移り変わるファッションではあるが、過去のトレンドが今の流行のベースになる事例も少なくない。知識を説得力あるセールストークに活かすことが出来るよう事例を交えて学ぶ。	1・後	30	1				○	○							○	

○		デザイン発想論	多様な発想法の存在を認識し、活用できるようにする。	2	30	1		○	○	○								
○		デジタルデザイン	デザインの現場での必須アプリであるデザイン系ソフトを学習し、基本的な操作方を習得する。企画書やレイアウトデザインを要する印刷物への応用力を身につける。	2	30	1		○	○									
○		ポートフォリオ制作	学生個々のポートフォリオ制作に必要な基本的な考え方を学び、自らのポートフォリオを制作する。	2	30	1		○	○									
○		生産企画実習	アパレル企業の『MD・デザイナー・パタンナー・生産』の職務を部分的に実践する。商品企画～サンプル製作～社内提案の基本的な内容や流れの理解を深める。	2	90	3			○	○								
○		創作実習	各自で注文を取り、依頼者の求めるデザインを忠実に製作出来る技術を身につける。	3	120	4			○	○								
○		SPA実習	アパレル業界におけるSPA業態の流れを実習により総合的に学ぶ。消費者を意識した実践的グループワークを行うことで、各部門の業務内容を理解する。	3	90	3			○	○								
○		SPA製作	SPA実習における企画に沿い、販売するための商品製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3	180	6			○	○								
○		キャリアプラン	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2	60	2		○	○									
○		シズデプロジェクト	デザインの発想、素材、パターン、造形などの知識を作品製作を通して身につける。	1	30	1		○	○									
○		卒業制作	縫製技術力を結集させた集大成として、「デザイン・ア・ラ・モード」にてファッションショー形式で作品を発表する。素材の特徴を生かした扱い方や、縫製レベルを評価する。	3	360	12			○	○								
○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2	60	2			○	○								
○		特別講座Ⅰ	特別講師の講演を聴講したり、美術館や映画・演劇等の見学を行う。	1	30	1		○	○									
○		特別講座Ⅱ	特別講師の講演を聴講したり、美術館や映画・演劇等の見学を行う。	2	30	1		○	○									
○		特別講座Ⅲ	特別講師の講演を聴講したり、美術館や映画・演劇等の見学を行う。	3	30	1		○										
合計				41	科目	2940単位時間(98 単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席制限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	18週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科は、広告・デザイン業界における総合的な学習を行い、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた、人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科	平成9年文部省告示 第184号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3030	390	4260	300	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
180人	164人	3人	42人	44人			
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする			
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏季：7月22日～8月29日 ■冬季：12月20日～1月5日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと			
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。		課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動：有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)SBSメディアビジョン、(株)コーヨー化成、(株)モスククリエイション、(株)東洋印刷、(株)ファンテックス、(株)ピーエーシー等 ■就職率 ^{※1} ：87.5% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} ：98.2% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■AFT色彩能力検定3級 ■DTP検定 ■漫画能力検定			
中途退学の現状	■中途退学者 15名 平成28年4月1日在学者 179名 平成29年3月31日在学者 164名		■中退率 8.4% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)				
■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更、経済的理由のため。							
■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなど実施し、学生の変化を早期発見に努めた。							
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

グラフィックデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
杉山 元	静岡県広告業協会 理事長
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長 グラフィックデザイン科学科長

(開催日時)

第1回 平成28年 3月15日 15:00 ~ 17:00

第2回 平成28年 8月 8日 15:00 ~ 17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

広告・デザイン業界に就職する学生に対し、関連する業界内での仕事への取り組み方(基本行動)や発想力を演習・実習を通して経験し体得することができるよう企業等を選定している。

同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	有限会社岡本戦略広告事務所

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 バイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程グラフィックデザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2		○		○	△	○		
○			美術史	各時代ごとの価値観や流行によってどのような美術様式や作品が生まれたのかを学ぶ。また、授業内容を絵と文字を使って図解することで、まとめる力を養い、情報伝達の基礎を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの発祥や歴史を学び、デザインという行為を再認識する。また、現代に影響を与えているデザイナーについて学び、デザインワークの参考にする。	1・後	30	1	○			○			○	
○			色彩学	色彩理論の基礎を学び配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○			○	
○			広告概論	広告とは何か。広告制作の流れは？クリエイターの役割とは。これらの概念・枠組・実務の基本を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			DTP・印刷Ⅰ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	1・後	30	1	○			○			○	
○			DTP・印刷Ⅱ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	2・後	30	1	○			○			○	
○			広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	2・前	30	1	○			○				○
○			企画論	日常生活から社会全般まで問題意識を持って課題発見する視点を養い、そこを出発点に具体的なビジネスプランを組み立てるプロセスを学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	

○		マーケティング	ビジネスプラン作りの基本となるマーケティングの基礎知識と考え方を学ぶ。社会との接点を意識し、環境・市場・企業の動向や消費者の意識・ニーズに対する感度を磨く。	2・前	30	1	○			○								
○		プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトウェアについて学ぶと同時に、効果的にプレゼンテーションを行う技法を学ぶ。	2・通	30	1		○		○								○
○		知的所有権	著作権、意匠権、商標権、不正競争防止法等の事例や法令を通して、知的所有権に関する基本的な概念について学びます。	3・通	30	1	○			○								○
○		デッサン・クロッキー	立方体、円柱などの幾何形態を描写することによって遠近法などをしっかり身につける。ガラス、金属、布など質感の違いを表現する技法を修得する。	1・通	90	3		○		○								○
○		デザインスケッチ	イマジネーションを働かせ、素早く物や人物を表現する技法を身につける。	2・前	30	1		○		○								○
○		塑像	粘土により、奥行きのある作品を造形することで、立体の感覚を身につける。	1・前	30	1		○		○								○
○		デザイン図学	デザインワークに必要な基本的図学や図面の知識や技術の習得及び、フィニッシュワークの練成。	1・前	30	1		○		○								○
○		平面構成	平面デザインにおける、線・形・色彩の構成をとおして、配置の基本と視覚効果について学び、アクリル絵具による着彩を行なう。	1・前	60	2		○		○								○
○		立体構成	身近な素材である「紙」を中心に、簡単なペーパークラフトの課題を進めていく中で、立体感覚・空間把握の感覚を養っていく。作業の正確さや計画性の重要性なども身に付けていく。	1・後	60	2		○		○								○
○		表現研究	ビジュアルの表現方法は多種多様であることを理解し、その表現方法を学ぶ。また、後のMacでの制作活動に活かせるよう、表現の可能性について理解を深める。	1・前	30	1		○		○								○
○		発想表現	デザインとは何かを学び、発想する脳を作り、発想し、編集し伝える感覚を養う。	1・通	60	2		○		○								○
○		ビジュアルデザインⅠ	様々なビジュアル表現を通してデザインする意味を理解する。	1・前	60	2		○		○								○
○		コミュニケーションデザインⅠ	線、色、形、文字、写真など、さまざまなメディアを用い、「伝わる・わかる」をテーマに、実践的な表現制作を行う。	1・前	60	2		○		○								○
○		コミュニケーションデザインⅡ	発想の幅を広げながら、自分なりの表現切り口（斬り口）を見つけていく。	2・通	30	1		○		○								○
○		コミュニケーションデザインⅢ	静岡新聞広告賞公募部門をとおして、広告の基礎を学び課題分析力と伝わる表現力、造形力を身につける。	3・前	60	2		○		○								○

○		産学連携 プロジェクトⅡ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインすることを通して地域の未来を支える力を育てる。	2・後	60	2		○	○										
○		産学連携 プロジェクトⅢ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインすることを通して地域の未来を支える力を育てる。	3・前	60	2		○	○										
○		テーマ研究	卒業制作のテーマとなるふさわしい内容を考え、分析し、卒業制作につなげる。	3・前	30	1		○	○										
○		展示計画	卒業制作作品を効果的に演出、展示する。	3・後	60	2		○	○										
○		卒業制作	3年間で身につけた技術の集大成としての卒業制作。各自、テーマ研究から導きだした各自のテーマから企画デザインを行う。	3・後	150	5		○	○										
○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○	○									
合計					107	科目	4950単位時間(165 単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	18週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科は、家具や照明器具、雑貨、ステーションナリー、ホビー、アクセサリなど、日常生活の中で使われる様々な製品の企画・デザインから制作するまでのプロセスを学び、モノ作りを総合的に行うことができる人材の育成を目的とする。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	専門課程	プロダクトデザイン科		平成12年文部省 告示第15号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2940	360	2490	90	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数		
60人	49人	4人		33人	37人		
学期制度	■前期：4月1日～ 9月30日 ■後期：10月1日～ 3月31日		成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする			
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏季：7月22日～8月29日 ■冬季：12月20日～1月5日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと			
生徒指導	■クラス担任制： 無 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。		課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動： 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ・家具業界 ・製造業 ・雑貨販売 ・デザイン事務所 ・ディスプレイ業界 ■就職率 ^{※1} : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■レタリング検定3級 ■AFT色彩能力検定3級 ■ビジネス実務マナー検定3級 ■商品ラッピング検定3級			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成28年4月1日在学者 54名 平成29年3月31日在学者 49名		■中退率 9.2 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業生を含む)				
■中途退学の主な理由 体調不良、別分野への進路変更							
■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなどを実施し、学生の変化を早期に発見するよう努めた。							
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/web						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

プロダクトデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
杉山 元	静岡県広告業協会 理事長
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鷲巣 恭一郎	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科学科長

(開催日時)

第1回 平成28年 3月15日 15:00 ~ 17:00

第2回 平成28年 8月 8日 15:00 ~ 17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実践的な授業実施について協力的で、学生が理解しやすい事例を提示できる企業を選定している。また、授業運営について、学校の要請に柔軟に対応してもらえるよう要請している。

科目名	科目概要	連携企業等
家具デザイン	クライアントを設定し、より現実的な家具デザインの提案を行なうことで、より実践的なデザイン能力を養う。	有限会社 環プロダクツ

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 パイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程プロダクトデザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	30	1	○			○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2	○			○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2	○			○	△	○		
○			デッサン	遠近法がどのようなものであるかを理解する。また、3次元で空間に存在する形を正確に描写する力を身につける。	1・前	60	2	○			○			○	
○			アイデアスケッチⅠ	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手描きスケッチ技術を習得する。	1・前	60	2	○			○			○	
○			アイデアスケッチⅡ	既存のカタチを変形・展開し、新しい形態をデザインする。また、1年次に習得したテクニックでスケッチ精度を向上させる。	2・通	30	1	○			○			○	
○			デザイン図学Ⅰ	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・前	30	1	○			○			○	
○			デザイン図学Ⅱ	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインしたプロダクトをJIS規格に沿って三面図化する。	2・前	30	1	○			○			○	
○			平面構成Ⅰ	立体・空間デザインに共通する発想・表現・配置・配色の基本を、様々な平面課題を通して学ぶ。	1・通	60	2	○			○			○	
○			平面構成Ⅱ	配色の基本と視覚的効果を学びつつさらにデザインと伝統的な印刷技法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
○			塑像	基本的な観察力を養う。自然な形のトレースを通して立体的な表現力を身につける。	1・通	60	2	○			○			○	

○			雑貨デザイン	雑貨の基礎知識をもとに雑貨店に必要な販売促進アイテムをリサーチし、実際の店舗を想定して試作を行う。	2・通	30	1			○	○							○	
○			インダストリアルデザイン	企業外デザイナーの立場でクライアントの意向に沿ったデザインを提案する。コンセプト作りからプレゼンテーションまでの一連の流れを理解する。	2・前	30	1			○	○								○
○			クラフトデザイン	伝統工芸の技術や考え方を調査・学習し、現代の生活にマッチしたクラフトデザインとは何かを考え、新しいライフスタイルを提案する。	3・前	30	1			○	○								○
○			ラッピング&ディスプレイ	顧客サービスの一環としてのギフトラッピングサービスが正しく理解し、その手法を実際の現場で使う事が出来るよう演習を行なう。	3・通	30	1			○	○								○
○			プラスチック成型	プラスチックの成形方法を学び、この材料が今後、どのようなデザイン分野に活用出来るかを考える。	2・通	60	2			○	○								○
○			パッケージデザイン	容器としてのパッキングから、パッケージの機能や基本的な素材と技術に関する知識を演習課題を通じて体験し、考察する。	2・後	30	1			○	○								○
○			デザイン知識Ⅰ	現代のデザインの辿った道、これからのデザインの方向性を検証することでデザインとは何か?ということを考える。	2・前	30	1			○			○						○
○			デザイン知識Ⅱ	椅子の原点でもあるスツールをテーマにして新しいデザインに取り組む。また実際に自ら制作することで、生活の道具づくりの持つ意味を考えるきっかけにする。	3・前	30	1			○			○						○
○			素材演習 木Ⅰ	素材としての「木」について学び、「木」についての基礎知識を得る。また、実際に木に触れてモノをつくることで、素材を体感する。	1・通	30	1			○	○								○
○			素材演習 木Ⅱ	木の板材から実際の家具を制作するという体験を通して、木という素材を体感するとともに、その加工技術を身につける。	2・後	90	3			△	○	○							○
○			素材演習 ガラスⅠ	素材としてのガラスの特性を学び、デザインに応用する際に必要な知識を習得する。	1・前	30	1			○	○								○
○			素材演習 ガラスⅡ	スタンドグラス制作の基本技術を更に発展させ、「ガラス」という素材への理解を深める。	2・通	60	2			○	○								○
○			素材演習 金属Ⅰ	身近ではあるが加工には特殊な技術が必要になる金属を実際に加工し、素材としての金属の特性や特徴を理解する。	1・前	30	1			○	○								○
○			素材演習 金属Ⅱ	素材としての金属の基本的特性や特徴を理解した上で、アイデアを拡げ、デザインを考え、実際に製作することにより、基本的なモノづくりの流れを理解する。	2・後	30	1			○	○								○
○			素材概論Ⅰ	多種多様ながら身近な素材であるプラスチックの基礎知識を学ぶ。	1・通	30	1			○			○						○

○		シズデプロダクションⅡ	外部とのコラボレーションを軸に学内だけでは体験できない課題に取り組み、人間力（社会人基礎力）を高める取り組みを行なう。	2・通	30	1		○	○	○			
○		産学連携プロジェクトⅠ	静岡の企業や団体を巻き込みながら、解決法を研究～発想～提案し、社会や地域へ貢献する成果としてまとめる。	2・後	30	1		○	○			○	
○		産学連携プロジェクトⅡ	商品開発などのモノづくりだけにとどまらず、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインできる、地域の未来を支える力を育てる。	3・前	60	2		○	○	△		○	
○		研修旅行	海外に出向き、歴史的な作品、関連施設などを視察する。また、異文化の環境に身を置くことによって日頃の学習では得られない体験を通して知識を学び研鑽を積む。	2・後	60	2		○		○	○		
合計			60科目	2940単位時間(98単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科は、住まいや店舗のインテリアをデザインしたり、コーディネートしたりすることができる空間デザイナーの育成を目的としており、住宅の他、街並やイベント、劇場にいたる様々な空間を効果的に表現するため、図面や模型、CGなど、多彩な提案方法を実際の制作活動を通して身につけている。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	専門課程	インテリアデザイン科		平成23年文部科学省 告示第166号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2940	210	2730	0	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数		
60人 の内数	39人 の内数	4人		28人	32人		
学期制度	■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～ 3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 7月22日～8月29日 ■冬季: 12月20日～1月5日 ■学年末: 3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと			
生徒指導	■クラス担任制: 無 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。		課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ・家具業界 ・製造業 ・雑貨販売 ・デザイン事務所 ・ディスプレイ業界 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■レタリング検定3級 ■AFT色彩能力検定3級 ■ビジネス実務マナー検定3級 ■建築CAD検定3級			
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 7.1 % 平成28年4月1日 在学者 42名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 39名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 別分野への進路変更、家庭事情による。 ■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなどを実施し、学生の変化を早期に発見するよう努めた。						
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/web						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

インテリアデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
杉山 元	静岡県広告業協会 理事長
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科学科長

(開催日時)

第1回 平成28年 3月15日 15:00 ~ 17:00

第2回 平成28年 8月 8日 15:00 ~ 17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
素材演習Ⅱ(建築材料)	ランプ・照明器具の基本知識、配灯の方法を学び、光を活かした空間設計ができる基礎を習得する。	TOMOSU.D

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 パイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程インテリアデザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2	○			○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2	○			○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2	○			○	△	○		
○			塑像	基本的な観察力を養う。 自然な形のトレースを通して立体的な表現力を身につける。	1・前	30	1	○			○			○	
○			レタリング	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手描きスケッチ技術を習得する。	1・前	30	1	○			○			○	
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・通	60	2	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにする。	1・前	30	1	○			○			○	
○			デザイン概論	そもそもデザインとは何か？なぜデザインは必要なのか。基本的な概念をワークショップ等を通じて学習する。	1・通	30	1	○			○			○	
○			表現演習Ⅰ (図学)	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・通	120	4	○			○			○	
○			表現演習Ⅱ (図学)	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインした空間をJIS規格に沿って図面化する。	2・通	90	3	○			○			○	
○			造形演習 (構造力学)	アーチ、トラス、ラーメンなどの構造の種類から引張り、圧縮などの構造物にかかる力について学び、強度を保つための知識を学ぶ。	2・通	90	3	○			○			○	

○		卒業研究 (建築計画)	2年間で学んできたことの集大成として、実社会へ踏み出す前の実績をつくる。研究成果に対しては外部の人や企業からの評価を受ける。	3・通	570	19			○	○					○
○		キャリア プランⅠ	「自分自身を知ること」から始め、働くことに対する意識を高める。	1・前	30	1	○			○					○
○		キャリア プランⅡ	特にコミュニケーション能力を強化することを重視し、様々な場面で対応できる能力形成を目的とする。	2・通	30	1	○			○					○
○		キャリア プランⅢ	就職活動を念頭におき、面接時の対応、適正な履歴書の書き方などを体得する。	3・前	30	1	○			○					○
○		シズデプロダク ションⅠ	外部とのコラボレーションを軸に学内だけでは体験できない課題にチームで取り組み、力を合わせて問題解決することの大切さを学ぶ。	1・通	60	2		○		○					○
○		シズデプロダク ションⅡ	外部とのコラボレーションを軸に学内だけでは体験できない課題にチームで取り組み、人間力（社会人基礎力）を高める取り組みを行なう。	2・通	30	1		○		○					○
○		産学連携プロ ジェクトⅠ	静岡の企業や団体を巻き込みながら、解決法を研究～発想～提案し、社会や地域への貢献を目指して取り組む。	2・後	30	1		○		○					○
○		産学連携 プロジェクトⅡ	商品開発などのモノづくりだけにとどまらず、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインできる、地域の未来を支える力を育てる。	3・前	60	2		○		○	△				○
○		研修旅行	海外に出向き、歴史的な作品、関連施設などを視察する。また、異文化の環境に身を置くことによって日頃の学習では得られない体験を通して知識を学び研鑽を積む。	2・後	60	2		○			○	○			
合計				35科目	2940単位時間(98単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時間数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	18週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333				
目的	本科はフラワーアレンジメント等の装飾知識だけでなく、花の栽培、流通等にわたる幅広い学習をする。また、花による表現の基礎知識であるデッサンや色の知識を習得し、花で思いを表現できる実践力を養い、花関連企業をはじめとするフラワー業界で活躍できる人材育成を目的とする。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	専門課程	フラワーデザイン科		平成27年文部科学省告示第14号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920	450	1350	120	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	42人		3人	26人	29人		
学期制度	■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～ 3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 7月22日～8月29日 ■冬季: 12月20日～1月5日 ■学年末: 3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること ■学納金が未納でないこと			
生徒指導	■クラス担任制: 無 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者相談しながら改善策を検討し、講じる。		課外活動	■課外活動の種類 女子バレーボール部、軽音部、漫画研究部、映像クラブ、インテリア研究部、イベント企画部等 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)セントフルーリ、フラワーショップ花花、(株)するが花き卸売市場、(株)掛川花鳥園、(株)藤田農園他 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 81.8% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■フラワー装飾技能検定(国家資格) 3級、2級、 ■プライダルフラワープランナー ■AFT色彩能力検定3級・2級 ■販売士検定 ■サービス接遇検定 ■グリーンアドバイザーなど			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成28年4月1日 在学者 44名 平成29年3月31日 在学者 42名 ■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更のため。		■中退率 4.5% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)				
	■中退防止のための取組 入学時より早期に個別面談を実施し、個々の学生の状況把握に務めた。また、学科担当以外の教職員からの声かけなど実施し、学生の変化の早期発見に努めた。						
ホームページ	http://www.sdc.ac.jp/						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生花を中心とした流通・販売・利用において、必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
田代 穂徳	NPO法人 花咲くしずおかフラワーネットワーク会議 理事
小林 廣夫	株式会社 フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
境 香良里	静岡デザイン専門学校 フラワーデザイン科科长

(開催日時)

第1回 平成28年3月29日 16:00～17:00

第2回 平成28年8月9日 16:00～17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

生花店等の実際の業務に携わり、職業人としての基本行動を理解することができる連携先を選定している。また、学生の就職希望に繋げることが可能な連携先を選定している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ショップ研修	生花店や園芸店、生花市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	おおきな木、フラワーコンシェルジュ それいゆ、フラワーショップ花花、(旬)いとう生花店、(株)北小路生花 総数19社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「静岡デザイン専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修期間と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)
渡邊 裕一	静岡デザイン専門学校 後援会 会長 (保護者)
塚本 雅英	静岡市伝馬町発展会 会長 (近隣住民代表)
小林 廣夫	株式会社フローラ45 小林岩夫生花店 代表取締役 (業界関係者)
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役 (業界関係者)
落合 功男	株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店 バイヤー (業界関係者)
以下 事務局	
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長
鈴木 美紀	静岡デザイン専門学校 総務課長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法) 学校のホームページ上に掲載

URL:<http://www.sdc.ac.jp/>

(文化・教養 専門課程フラワーデザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			IT活用	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○	△	○		○		
○			IT応用	インターネット上のサービスを効率よく利用することや、SNSに拠る情報発信について学ぶ。	2・後	30	1		○	△	○		○		
○			デッサンⅠ	人に伝える手段としての『描くこと』を体得する。まずは対象を正確に捉えることからスタートする。	1・通	60	2		○		○			○	
○			デッサンⅡ	人に伝える手段としての『描くこと』をより習慣化して体得する。実践的な対象を描くことにより仕事の上でも活用できる技術を身に付ける。	2・通	30	1		○		○			○	
○			造形基礎実技Ⅰ	様々な創作活動に共通する基本的なデザイン感覚を身につける。また多くの素材や既存の作品に触れ、表現方法の幅を広げていく。	1・通	60	2		○		○			○	
○			造形基礎実技Ⅱ	1年次で学んだ素材知識をもとに、より幅のあるデザインに発展させ、作品の質を向上し、完成度の高い制作をする。	2・通	60	2		○		○			○	
○			色彩学Ⅰ	色彩理論の基礎を学び、配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定3級合格を目指す。	1・後	60	2	○			○			○	
○			色彩学Ⅱ	色彩の基本（色彩検定3級）をふまえ、更にレベルアップをねらい、色彩検定2級合格を目指す。	2・前	30	1	○			○			○	
○			カラーイメージ	色彩の知識を基礎に、顧客のニーズに応え、満足いただけるアレンジや花束等をデザインする方法を学んでいく。また、色の持つイメージと効果も学び、配色のコツを覚える。	2・前	30	1		○		○			○	

○		園芸福祉Ⅰ	花を通して、高齢者施設等での植物のあり方や植物を介して人と接することの役割を演習から学ぶ。	1・通	30	1		○	○	△	○		
○		園芸福祉Ⅱ	園芸福祉Ⅰの考え方を深め、現場での演習を重ねる、知識と実践が伴うように学び、園芸療法についても学習する。	2・通	30	1		○	○	△	○		
○		フラワーアレンジメントⅠ	生産者から消費者への広い花の業界の中で様々なデザインやスタイルのバリエーションのアレンジメントを制作できるよう生花を主に、レッスン1から発展していく。	1・通	90	3		○	○		○		
○		フラワーアレンジメントⅡ	フローリストを中心に、各職業に通じる、オリジナリティ豊かな完成を一步步アップしていく。(花の扱い、使用法、ブーケ、アレンジメント、オリジナル作品)	2・通	60	2		○	○		○		
○		フラワー装飾法Ⅰ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	1・後	60	2			○	○		○	
○		フラワー装飾法Ⅱ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級を受検し、花束やアレンジメントの基礎を身につける。	2・前	60	2		○	○				
○		植物知識	フラワーアレンジメントやガーデニングに必要な植物の生態に関する知識を身につけるとともに、フラワーアレンジの基礎となる花の色や形について、植物学的な知識を身につける。	1・通	30	1	○		○		○		
○		園芸	四季の植物の育て方と用土、肥料など園芸基礎を学ぶ事によりお客様からの園芸相談や商品解説を時代に合った方法、言葉で解説できるようになり、実習作業でより理解も深まるようになる。	1・通	60	2		○	○	△	○		
○		園芸実習	実店舗で実習する事で、店頭での対応、仕事内容が具体的に理解でき、就職後即役立つことを学ぶ。	2・通	60	2		○	○	△	○		
○		ガーデンデザイン	ガーデンデザインに限らず、エクステリア全般について紹介し、エクステリアの仕事内容を知ってもらう。	2・通	30	1		○	○		○		
○		フラワービジネス論Ⅰ	フラワービジネスの基本知識の習得。産地生産、市場流通、病虫害、法令の基礎的な知識を学ぶ。	1・通	60	2	○						
○		フラワービジネス論Ⅱ	フラワービジネス界の現状を伝え、フラワー業界で働くことの意識を理解し習得させる。	2・通	30	1	○						
○		ブライダルプランナー	ブライダルプランナーとして基礎知識を習得し、全日本ブライダル協会が主催する「ジュニアライセンス検定試験」取得を目指す。	1・通	60	2	○		○		○		
○		ブライダルプランナー実践	ブライダル施設の見学や現場のそれぞれの担当者の役割について学習し、テーブルマナーについて理解を深める。	1・通	30	1	○		○		○		

○		サービス接遇	サービス業とはどのようなものかを考え、ビジネスの場でのサービス接遇というもの、顧客との接し方、具体的な考え方・行動の仕方・会話方法などを学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○		
○		接客技術	人前でも臆することなく自信を持って堂々と話ができるようにし、美しい立ち居振る舞いができ、正しい滑舌、正しい敬語を使い、好印象を与える接客ができる。	1・後	30	1		○		○				○
○		セールスプロモーション	ラッピングペーパーやリボンの使い方、プリザーブドフラワー等で作品の製作技術を学ぶ。	1・通	30	1		○		○				○
○		販売士講座	販売技術及び経営知識に関する能力を養成することを目的として、販売士資格3級取得を目指す。	1・後	30	1	○			○				○
○		生け花	日本伝統の華道について学習する。流派は国風華道会・小原・池坊・草月・古流松藤会。	2・通	60	2		○		○				○
○		ショップ実習	デザインファームにて、フラワーショップを実際に営業することを体験し、意識を高める	1・後	60	2		○		△	○			○
○		ショップ経営	オリジナルショップを提案することを通し、会社の設立と経営について学習する。	2・前	30	1	○			○				○
○		ショップ研修	生花店や園芸店、青果市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	2・前	60	2			○		○			○ ○
○		キャリアプランⅠ	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学ぶことで、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化し、今後の就職活動における面接に備える。	1・後	30	1	○			○				○
○		キャリアプランⅡ	コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2・前	30	1	○			○				○
○		シズデプロダクションⅠ	清水港フラワーショー及び、デザインアラモードのフラワーショップの準備とフラワーショップ実習を行う。	1・通	60	2		○		○	△			○
○		シズデプロダクションⅡ	地域での対外イベントに参加するを通し、コミュニケーション能力の向上、責任感を持って行動することを学ぶ。	2・通	60	2		○		△	○			○
○		アラモード	フラワービジネス科の学生としての集大成。自分自身の勉強した事柄全てを一つの作品にこめて作ることで2年間の実力を知る。	2・通	90	3		○		○				○ △
○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2		○			○	○		

○		特別講座Ⅰ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	1・通	30	1		○	○	○			
○		特別講座Ⅱ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	2・通	30	1		○	○	○			
合計			41 科目	1920単位時間(64 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。